

天基 15 年天曆 1 月 2 日（陽曆 2 月 11 日）公開礼拝訓読のみ言
『原理原本』 658 ページ 4 行目から 660 ページ 11 行目

創造の本意はどのような目的かという天の父母が基本目的だが、今まで「父なる神」のみとなり、創造目的が未完成であることを告げている。つまり神が父格としていらっしゃるのは、創造が終わったとしても、その目的が未成就であると告げていることを知らなければならない。

このように人間に対する神が父格としてのみいらっしゃるのは、人間がまだまだ完全に成熟できていないことを意味している。天の愛を中心とする神と地の人間夫婦とが、神を中心に合体する目的が未完成であることにより、天の父母と地の父母も父母完成の原理的成立ができなかった。人間が墮落したため、天の父母は未完成であり、地の父母も非原理状態となったのである。

ゆえに神が今まで「父なる神」としてのみいらっしゃったということは、未成熟期にいる人間と接していた、創造当時の神の立場であることを証するものだったのである。神の基本目的は、地だけで完成することはできない。基本目的を完成してこそ地の完成となるが、天が未完成ゆえに地は自然と未完成となるため嘆息せざるを得ないものとなる。

このような墮落世界を再び本然の原理世界として取り戻すため、天に対する人間は、基本点を目指して基本完成体に向かい、神は人間を引き上げる救援役事をする。それゆえ基本問題は完成した人間、すなわちアダムとエバである。神と合体して天の父と母として完成することにより基本完成するがゆえに、すべてがこの完成位置を探し立てて自己の使命を果たすのである。この点から初めて存在目的が完成するため、宇宙の幸福が始まる。天に行った人間も、この時をいつまでも待ち望む理由は、基本完成によって各自が完成し、基本解放となるからである。

このようにして、全体が一つの目的により天を中心に地が動じるため、天であり地、地であり天となる地上天国が完成する。それができないがゆえに、神は地と合体できないというのが基本原理である。不完全な存在に神が相対すれば理想を完成できないため、今まで神は人間に相対できなかったのである。

そして人間は、天の父母と一つになり、基本目的を完成した自らとして理想の夫婦になることが目的である。今まで天の父母が未完成だったため、天に行った人間も未完成である。また理想体となる対象存在をもつこともできなかった。それゆえ、天のみ旨を完成する天の父母に侍る地上天国ができれば、地で生まれた人間は天の父母に侍りながら永遠の夫婦を完成しなければならない。天に行った人間も、天の父母の前に一夫婦として地上と同じ一つの家庭を完成して立てるようになるため、天全体の霊人たちは地上に向かって理想完成を待ち望むのである。

天を中心として未完成ゆえに天全体が未完成となり、すべてが不安をかかえたまま地に対してきた。ゆえに神は、今まで語ってきた基本完成が目的であるため、母を求めてきたのである。地に父母がいるならば、天にも父母がいてこそ天が本体であり地が第二対象となる。それゆえ地は天の影であることを明らかにしてきたのである。ここにおいてのみあらゆる原理が完成する。そのときこそ人間は基本の根を取り戻し始めるのである。